第13回「成果の発表(1)」

今後のスケジュール

第13回 (2013-07-03)	自分のレポートを作成して、添削を受ける
第14回 (2013-07-10)	レポートを提出する、プレゼンテーションを練習する
第15回 (2013-07-17)	最終のプレゼンテーションをする、内容をお互いに評価する

インターネットを利用して関連資料を探す

資料を探すときの方針

1. テーマに関する全体的な知識や動向を調べる
2. テーマに関する基礎的な知識や専門用語などを調べる
3. テーマに関する最新の知識や動向を調べる
4. テーマに関連する他の分野の知識や情報を調べる

探した情報は、どこにある情報かを記録して、コピーまたは印刷して保存しておきましょう。

- ネット上の情報は「お気に入り」に追加しておき、印刷もする
- 図書・文献は、コピーをしたり「文献メモ」を作成しておく

資料を探すときの注意点

- インターネット上の情報に頼りすぎない
  - インターネット上には膨大な情報がありますが、信頼性が高く内容も正確な情報から、間違っていたり無責任に書かれた情報まで、玉石混淆の状態。
  - できるだけ、書籍や新聞、学術論文などで裏付けを取るようにする
- 集めた情報のほとんどはレポートを書くのに直接は使えない
  - 多くの情報を調べても、そのすべてをレポートに書けるとは限らない
  - 集めること自体が無意味なわけではなく、書くために必要な基礎的な知識となる

ネットを使って探す（公的情報源、白書、統計資料など）

- 情報通信白書 (総務省：http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/)
- 統計調査結果 (e-Gov 電子政府の総合窓口：http://www.e-gov.go.jp/link/statistics.html)
- サイバー犯罪対策 (警察庁：http://www.npa.go.jp/cyber/)
- ハイテク対策 (警視庁：http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/haiteku/)
- 情報セキュリティ (情報処理推進機構：http://www.ipa.go.jp/security/)
- インターネットホットライン連絡協議会 (http://www.iajapan.org/hotline/)

ネットを使って探す（専門に関する情報）

- INETERNET Watch (インプレス：http://internet.watch.impress.co.jp/)
- ネット・ウィルス情報 (asahi.com：http://www.asahi.com/digital/internet/)
- ネット＆デジタル (YOMIURI ONLINE：http://www.yomiuri.co.jp/net/security/)
- デジタル (日経トレンディネット：http://trendy.nikkeibp.co.jp/digital/)

ネットを使って探す（文献情報など）

- 文献の題目・著者・本文などで検索
  - CiNii 論文情報ナビゲータ (国立情報学研究所：http://ci.nii.ac.jp/ja)

- Google Scholar (Google：http://scholar.google.co.jp/)

- OPAC (蔵書カタログ) の検索
  - 大学のOPAC (兵庫大学：http://media.hyogo-dai.ac.jp/lib/)
  - Webcat plus (国立情報学研究所：http://webcatplus.nii.ac.jp/)
  - NDL-OPAC (国立国会図書館：http://opac.ndl.go.jp/)

- 電子ジャーナル
  - J-STAGE (科学技術振興機構：http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja)
  - ScienceDirect (エルゼビア：http://www.sciencedirect.com/)

引用のしかた

「**引用**」とは、レポートや論文のなかで自分の意見を明確にするために、他の文献の意見や考えを紹介することです。

引用で一番注意すべきことは、**どの部分が引用なのか**をわかるように書くことです。**他人の意見を自分の意見のように書く**ことは、他人の文章を盗んで自分のものとして発表する「盗作」、いわゆる「**剽窃**」は絶対に行ってはいけません。

また、引用だけで自分の意見を述べるのではなく、引用は必要最低限にとどめて書くことも大事です。

1. 要約して引用：必要かつ十分な長さで要約する
2. 短い引用 (2行以内)：引用文をカギカッコ (「」) でくくる

> 安田（1997）は、人々から組織の関係をとらえるのに「現象から記号（すなわち）
> モデルを投資するような柔軟性を備えなければならない」と述べている。

3. 長い引用 (3行以上)：引用文の前後に1行空けて、左側を2〜3文字分字下げする

> 安田は、『ネットワーク分析』のなかで、次のように述べている（安田 1997）。
>
> 言葉をかえて言うならば、「行為者の行為を、個人的な属性からでは
> なく、その行為者を取り囲むネットワークによって説明する」ための
> 分析をおこなうのが、ネットワーク分析です。
>
> つまり……

なお、2番目や3番目のような引用では、元の文章と一字一句正確することが大事で、勝手に加筆・訂正してはいけません。

引用するときは必ず、（次に説明する）どの参考文献から引用したかがわかるように、「河野(2009)は」「河野(2009)によれば」や「…である（河野，2009）。」のように著者の名字と発行年（出版年）を書いて、引用元を明らかにします。

参考文献の示し方

引用したり参考にした資料・文献があれば、その出典（情報の出所）を「**参考文献**」として書きだしておきます。

なお、参考文献として示すのに必要な情報は、書籍の場合は奥付（巻末の著者・出版社などの情報が書かれた部分）に、論文や記事の場合は余白部分などに書かれています。

1. 単行本 (単著、共著)
   - 書式：著者名 (出版年)『書名』, 出版社.
     - 例：安田雪 (2001)『実践ネットワーク分析』, 新曜社.
     - 例：増田直紀・今野紀雄 (2005)『複雑ネットワークの科学』, 産業図書.

2. 単行本（編著）

- 書式：編著者（出版年）『書名』，出版社。
  - 例：佐藤嘉倫・平松閧編（2005）『ネットワーク・ダイナミクス』，勁草書房．

3. 翻訳書

- 書式：原著者名（出版年）『書名』，翻訳者名，出版社．
  - 例：アルバート＝ラズロ・バラバシ（2002）『新ネットワーク思考』，青木薫訳，NHK出版．

4. 学術雑誌の論文・記事

- 書式：著者名（発行年）「論文名・記事タイトル」『雑誌名』，巻・号，ページ．
  - 例：中山洋・大和雅俊・山口正二・玉田和恵・松田稔樹（2007）「情報ののぞき見を題材とした情報モラル指導教材へのVRの活用に向けた実験的研究」『教育システム情報学会誌』，Vol.24 No.1，pp. 26-34．

5. インターネット上の情報

- 書式：著者名または発行者名「ウェブページの題名」，URL（参照 閲覧した西暦での日付）．
  - 例：総務省「平成24年度 情報通信白書」，http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/h24.html（参照 2013年7月3日）．

6. 新聞・雑誌の記事

- 掲載紙（紙）名（発行年）「記事の題名」発行日時 朝刊・夕刊と面数．
  - 例：朝日新聞（2013）「指先から学びを開く　無料オンライン講座、世界の大学が次々」2013年6月3日 朝刊3面．

参考文献のリストを書くときには、次のことに注意してください。

- 複数の参考文献を書くときは、著者名の名字のアルファベット順に並べる
- 同じ著者で、同じ発行年（出版年）の文献を挙げる場合は、発行年の後に a、bとアルファベットを追記しておく
- 参考文献の示し方には、分野や年代によって書き方の違いがあること（ただし、何を書くかはだいたい同じ）

参考文献

- 科学技術振興機構「参考文献の役割と書き方 科学技術情報流通技術基準（SIST）の活用」，http://sti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST_booklet2011.pdf（参照 2013-07-01）．
- 藤田哲也編著「大学基礎講座 改増版」，北大路書房(2006.03)
- 南田勝也・矢田部圭介・山下玲子「ゼミで学ぶスタディスキル」，北樹出版（2011.04）
- 学習技術研究会編著「知へのステップ 第3版」，くろしお出版（2011.03）
- 佐藤望編著，湯川武，横山千晶，近藤明彦「アカデミック・スキルズ」，慶応義塾大学出版会（2006.10）．
- 小笠原喜博「大学生のためのレポート・論文術」（講談社現代新書 1603），講談社(2002.04)．
- 泉忠司「90分でコツがわかる！『論文＆レポート』の書き方」，青春出版社（2009.07）．